

平成26年度収蔵作品(受贈)

No	作家名	作品名	制作年	寸法:縦×横(cm)	材質・技法
1	中村一美	聖皿(ヴィパシン)[毘婆尸仏]	2012	259.0×194.0	アクリル・綿布
2	吉澤美香	わー5	2005	220.0×220.0	アクリル、ガッシュ・合成紙
3	勝呂 忠	影	1954	91.0×65.2	油彩・カンヴァス
4	鈴木新夫	妻	1977	56.0×36.0	鉛筆・紙
5	鈴木芳子	夏井川をへだて発電所をのぞむ平の家の庭より	1955	32.0×41.0	鉛筆・紙【※裏面に鉛筆による書き込み(椅子と花瓶)あり】
6	鈴木芳子	炭鉱長屋	1957	29.5×23.5	鉛筆、クレヨン・紙
7	鈴木芳子	炭鉱長屋(こいのぼり)	1957	29.5×23.5	鉛筆、クレヨン・紙
8	鈴木芳子	みのる実	1958	21.0×14.5	鉛筆・紙
9	鈴木芳子	みのる実(パイプ)	1958頃	41.0×32.0	鉛筆・紙【※裏面に鉛筆による書き込み(人物)あり】
10	鈴木芳子、鈴木実	デッサン三題(鈴木芳子と鈴木実による)	1963/1963頃	43.5×30.0	鉛筆、ペン・紙【※紙の片面には鈴木芳子のデッサン2点(1)《(題名不詳)》(1963頃、鉛筆・紙、20.0×14.0)(上)、(2)《(題名不詳)》(1963頃、鉛筆・紙、18.0×20.0)(下)が貼られている。反対面には鈴木実のデッサン1点(3)《(題名不詳)》(1963、ペン・紙、12.5×17.0)が貼られている】
11	鈴木芳子	デッサン四題	1964/1964頃	43.5×30.0	鉛筆、ペン、水彩・紙【※紙の片面には(1)《(題名不詳)》(1964、鉛筆、ペン、水彩、16.0×20.5)(上)と(2)《恋人同士》(1964、鉛筆、17.0×23.5)(下)とが描かれている。反対面にはデッサン2点(3)《(題名不詳)》(1964頃、鉛筆・紙、20.5×14.0)(上)、(4)《(題名不詳)》(1964頃、鉛筆・紙、21.5×15.0)(下)が貼られている。】
12	鈴木芳子	デッサン四題	1966/1966頃	30.0×43.5	鉛筆、水彩・紙【※紙の片面には(1)《人紋No.16》(1966、鉛筆、水彩・紙、20.0×15.0)(左)と、(2)《(題名不詳)》(1966、鉛筆、水彩・紙、20.0×15.0)(右)が貼られている。反対面には、左側にデッサン(3)《(題名不詳)》(1966、鉛筆・紙、17.2×14.0)が描かれ、右側にデッサン(4)《(題名不詳)》(1966頃、鉛筆・紙、15.0×11.2)が貼られている。】
13	鈴木芳子	人々	1967	25.2×33.3	鉛筆・紙
14	大宮 昇	炭山図	1936頃	41.5×55.5	リトグラフ・紙(カラー)
15	大宮 昇	炭山図	1936頃	41.0×52.8	リトグラフ・紙(モノクロ)
16	大宮 昇	ドリルを持つ男	1942頃	11.0×15.5	リトグラフ・紙
17	大宮 昇	小さき苗	不詳	39.0×52.9	リトグラフ・紙
18	大宮 昇	『炭山画譜 大宮昇創作石版集』	1936	38.2×26.5	リトグラフ・紙、ed.50、(全14点)
	18-(1)	斜坑人車(表紙)	1936	(22.8×26.5)	リトグラフ・紙、※( )内はイメージサイズ(以下同様)
	18-(2)	技師の巡回(扉絵)	1936	(17.6×11.0)	リトグラフ・紙
	18-(3)	万石	1936	(17.3×19.2)	リトグラフ・紙
	18-(4)	撰炭場外景	1936	(13.5×26.7)	リトグラフ・紙
	18-(5)	撰炭場シャワー	1936	(22.0×29.0)	リトグラフ・紙
	18-(6)	撰炭婦	1936	(21.2×28.3)	リトグラフ・紙
	18-(7)	坑口にて	1936	(19.3×24.0)	リトグラフ・紙
	18-(8)	鑿岩機の男達	1936	(17.0×20.1)	リトグラフ・紙
	18-(9)	瓦斯のある坑内にて	1936	(19.7×27.3)	リトグラフ・紙
	18-(10)	坑内の捲場	1936	(20.3×28.0)	リトグラフ・紙
	18-(11)	炭山の街	1936	(17.0×19.5)	リトグラフ・紙
	18-(12)	炭山全景	1936	(20.1×25.2)	リトグラフ・紙

	18-(13)	坑夫(奥付)	1936	38.2×25.3	リトグラフ・紙
	18-(14)	太陽と坑夫達(裏表紙)	1936	(16.3×15.2)	リトグラフ・紙
19	大宮 昇	スケッチブック「炭鉱」(1)	1935	28.6×22.3	コンテ、色鉛筆、水彩・紙(全46点)
	(1)-1	表紙(磐城炭砒綴坑)			水彩・紙
	(1)-2	(磐城炭砒町田坑、専用鉄道と貨車)			コンテ・紙
	(1)-3	(巻上小屋とトロッコ)			コンテ、水彩・紙
	(1)-4	(炭車押し)			コンテ、水彩・紙
	(1)-5	(少年)			コンテ、水彩・紙
	(1)-6	(磐城炭砒綴坑)			コンテ、水彩・紙
	(1)-7	(炭鉱での人物デッサン8態)			コンテ、水彩・紙
	(1)-8	高坂炭坑			コンテ、水彩・紙
	(1)-9	(トロリー電車)			コンテ、水彩・紙
	(1)-10	(磐城炭砒町田坑、選炭場)			コンテ、水彩・紙
	(1)-11	(万石)			コンテ、水彩・紙
	(1)-12	(磐城炭砒町田坑、選炭場)			コンテ、水彩・紙
	(1)-13	(常磐線綴駅周辺)			コンテ、水彩・紙
	(1)-14	(立坑ヤグラ周辺)			コンテ、水彩・紙
	(1)-15	(立坑ヤグラ)			コンテ、水彩・紙
	(1)-16	(立坑ヤグラ周辺)			コンテ、水彩・紙
	(1)-17	(大煙突と煙道)			コンテ、水彩・紙
	(1)-18	(布製の防止を被った坑夫二人)			コンテ、水彩・紙
	(1)-19	(磐城炭砒住吉本坑)			コンテ、水彩・紙
	(1)-20	(炭鉱での人物デッサン14態)			コンテ、水彩・紙
	(1)-21	住吉坑附近にて			コンテ、水彩・紙
	(1)-22	高坂坑人車			コンテ、水彩・紙
	(1)-23	(トロリー電車、炭車ののりまわし)			コンテ・紙
	(1)-24	ポンプ室			コンテ、水彩・紙
	(1)-25	(坑内詰所)			コンテ、水彩・紙
	(1)-26	切羽			コンテ、水彩・紙
	(1)-27	(坑内での石炭運搬)			コンテ、水彩・紙
	(1)-28	坑夫のデッサン7態			コンテ、水彩・紙
	(1)-29	(切羽での石炭積み込み)			コンテ、水彩・紙
	(1)-30	(バッテリー)			コンテ、水彩・紙
	(1)-31	(斜坑人車)			コンテ、水彩・紙
	(1)-32	(坑夫)			コンテ・紙
	(1)-33	(ランプ、保安帽、ダイナマイト着火線巻、懐中電灯、弁当)			コンテ、水彩・紙
	(1)-34	坑口(入山採炭湯本坑)			コンテ、水彩・紙
	(1)-35	人車捲揚所			コンテ、水彩・紙
	(1)-36	巻揚げ機			コンテ、水彩・紙
	(1)-37	坑内詰所(第二水平坑上部)			コンテ、水彩・紙
	(1)-38	捲揚			コンテ、水彩・紙
	(1)-39	後山(石炭を炭車に積む)			コンテ、水彩・紙

	(1)-40	瓦斯を拂う(風管で風を送る)			コンテ、水彩・紙
	(1)-41	熱と闘ふ			コンテ、水彩・紙
	(1)-42	(コールピック)			コンテ、水彩・紙
	(1)-43	(安全灯を持つ坑夫、掘進、昼食)			コンテ、水彩・紙
	(1)-44	掘進			コンテ、水彩・紙
	(1)-45	人車			コンテ、色鉛筆、水彩・紙
	(1)-46	裏表紙(切羽での作業)			水彩・紙
20	大宮 昇	スケッチブック「炭鉱」(2)	1935	28.7×22.0	コンテ、墨、水彩・紙(全34点)
	(2)-1	表紙(入山採炭)			水彩・紙
	(2)-2	(坑内のエンドレス巻き)			コンテ、水彩・紙
	(2)-3	ポンプ座			コンテ、水彩・紙
	(2)-4	(選炭場)			コンテ、水彩・紙
	(2)-5	(選炭場の石炭積込み場)			コンテ、水彩・紙
	(2)-6	(選炭場のバケットコンベアー)			コンテ、水彩・紙
	(2)-7	(選炭場)			コンテ、水彩・紙
	(2)-8	(貨車積み)			コンテ、水彩・紙
	(2)-9	(石炭積込場)			コンテ、水彩・紙
	(2)-10	坑木			コンテ・紙
	(2)-11	(入山採炭の資材置場)			コンテ、水彩・紙
	(2)-12	(入山採炭)			コンテ、水彩・紙
	(2)-13	(人車から入坑)			コンテ、水彩・紙
	(2)-14	(修理工場)			コンテ、水彩・紙
	(2)-15	(高压送電の鉄塔)			コンテ、水彩・紙
	(2)-16	(選炭場の原炭ポケット)			コンテ、水彩・紙
	(2)-17	(貨車への積込み)			コンテ、水彩・紙
	(2)-18	(炭住と共同便所)			コンテ、水彩・紙
	(2)-19	(入山採炭)			コンテ、水彩・紙
	(2)-20	(会計日にたつ市のにぎわい)			コンテ、水彩・紙
	(2)-21	(国鉄の綴駅)			コンテ・紙
	(2)-22	(坑夫)			コンテ・紙
	(2)-23	(弁当を食べる坑夫)			コンテ・紙
	(2)-24	(婦人)			コンテ、水彩・紙
	(2)-25	(磐城炭砒住吉一坑)			コンテ・紙
	(2)-26	(火薬の受け渡し所)			コンテ、水彩・紙
	(2)-27	霞暮(磐城炭砒町田坑)			コンテ・紙
	(2)-28	(ズリ捨て場)			コンテ、水彩・紙
	(2)-29	(坑口の繰込み場)			コンテ、水彩・紙
	(2)-30	炭山の街			コンテ、墨・紙
	(2)-31	(技師の巡回)			コンテ、水彩・紙
	(2)-32	(入山採炭)			コンテ、水彩・紙
	(2)-33	(入山採炭)			コンテ、水彩・紙
	(2)-34	裏表紙(大煙突と立坑)			鉛筆、水彩・紙

21	大宮 昇	スケッチブック「炭鉱」(3)	1935	28.7×22.0	コンテ、鉛筆、水彩・紙(全33点)
	(3)-1	表紙(選炭婦)			水彩・紙
	(3)-2	(チップラー)			コンテ・紙
	(3)-3	(選炭場のバケットコンベアー)			コンテ、水彩・紙
	(3)-4	(選炭婦による石炭の選別)			コンテ、水彩・紙
	(3)-5	(選炭婦7態)			コンテ、水彩・紙
	(3)-6	選炭場シャワー			コンテ、水彩・紙
	(3)-7	(選炭場)			コンテ、水彩・紙
	(3)-8	(万石から選炭場へ)			コンテ、水彩・紙
	(3)-9	(スキップカー)			コンテ、水彩・紙
	(3)-10	選炭婦			コンテ、水彩・紙
	(3)-11	(ズリ山)			コンテ、水彩・紙
	(3)-12	(捲場)			コンテ、水彩・紙
	(3)-13	(ズリ山)			コンテ、水彩・紙
	(3)-14	(火力発電所)			コンテ、水彩・紙
	(3)-15	(炭車)			コンテ、水彩・紙
	(3)-16	(選炭場)			コンテ・紙
	(3)-17	(選炭場)			コンテ、水彩・紙
	(3)-18	auto conveyer(切羽からコンベアで炭車へ石炭を積む)			コンテ、水彩・紙
	(3)-19	(発破後の石炭積込作業)			コンテ、水彩・紙
	(3)-20	(風管)			コンテ、水彩・紙
	(3)-21	(切羽での支保)			鉛筆、コンテ、水彩・紙
	(3)-22	(支保工)			コンテ、鉛筆、水彩・紙
	(3)-23	(支保)			コンテ、鉛筆・紙
	(3)-24	(仕事を終わり身支度)			鉛筆、水彩・紙
	(3)-25	坑内事務所前にて			鉛筆、水彩・紙
	(3)-26	(一休みする坑夫)			鉛筆、コンテ、水彩・紙
	(3)-27	斜坑人車			コンテ、鉛筆・紙
	(3)-28	(オーガを持つ坑夫)			コンテ、水彩・紙
	(3)-29	(オーガを持つ坑夫)			コンテ、水彩・紙
	(3)-30	Good-bye, blue sky!			コンテ、鉛筆・紙
	(3)-31	(エンドレス巻)			コンテ、水彩・紙
	(3)-32	(選炭婦)			鉛筆、水彩・紙
	(3)-33	裏表紙(自画像)			鉛筆・紙
22	大宮 昇	スケッチブック「炭鉱」(4)	1935	28.7×22.0	コンテ、鉛筆、水彩・紙(全18点)
	(4)-1	表紙(立坑のある炭坑風景)			水彩・紙
	(4)-2	町田坑(と竹之内の専用鉄道をはさんだ町並)			コンテ、水彩・紙
	(4)-3	(磐城炭砦町田坑と炭鉱住宅)			コンテ、水彩・紙
	(4)-4	(磐城炭砦町田坑と炭鉱住宅)			コンテ、鉛筆、水彩・紙
	(4)-5	matida tanko			コンテ、鉛筆、水彩・紙
	(4)-6	(石炭積込場と貨車)			コンテ、鉛筆、水彩・紙
	(4)-7	(磐城炭砦綴坑と専用鉄道)			鉛筆、水彩・紙

(4)-8	(選炭婦の帰途)			鉛筆、水彩・紙
(4)-9	(選炭場)			鉛筆、水彩・紙
(4)-10	(入山採炭)			鉛筆、水彩・紙
(4)-11	(入山採炭)			鉛筆、水彩・紙
(4)-12	(御殿炭住から住吉坑の宮沢炭住をみる)			鉛筆、水彩・紙
(4)-13	排水口(高坂にて)			鉛筆、水彩・紙
(4)-14	好間坑(石炭積込場と専用鉄道)			鉛筆、水彩・紙
(4)-15	好間坑			鉛筆、水彩・紙
(4)-16	(磐城炭砒綴坑の大煙突と煙道)			コンテ、水彩・紙
(4)-17	(磐城炭砒綴坑の立坑ヤグラ)			コンテ、水彩・紙
(4)-18	(磐城炭砒綴坑)			コンテ、水彩・紙

◇中村一美(なかむら かずみ):1956年千葉県生まれ。1981年東京藝術大学芸術学科卒業、84年同大学院油画専攻修了。アメリカの抽象表現主義の研究をもとに、それを乗り越える新たな絵画の可能性を探求。現代日本においてもっとも精力的な活動を展開し、その充実した仕事は高く評価されている。

◇吉澤美香(よしざわ みか):1959年東京生まれ。1984年多摩美術大学大学院美術研究科修了。絵画の平面性を意識しつつ、三次元的形態を生き生きと現実空間に接続させようとする抽象的な絵画世界は高く評価され、80年代以降もっとも注目されてきた日本の現代美術家のひとり。

◇勝呂 忠(すぐろ ただし):1926年東京生まれ。1950年多摩造形芸術専門学校絵画科卒業、同年モダンアート協会創立の準備に参加。以後、モダンアート展に出品し、会員として活躍。1950年代には読売アンデパンダン展に出品。また、50年代半ばから早川ポケット・ミステリーの表紙原画を描く。2010年逝去。

◇鈴木新夫(すずき あらお):1915年いわき生まれ。1936年東京美術学校図画師範科卒業。1947年新制作派協会賞受賞。55年以降同会会員として活躍。労働の現場に取材し、労働者を深く受け止め共感を寄せた作風で知られる。昭和のいわきの美術を考えるにあたって重要な画家のひとり。1980年逝去。

◇鈴木芳子(すずき よしこ):1929年いわき生まれ。1952年東京藝術大学日本画科卒業。山本丘人に師事。1957年新制作協会展で新作家賞受賞。同年彫刻家の鈴木実(1930-2002)と結婚。異様なまでの迫力のある独特の人物画で人間存在の根源について探求。いわき出身の重要な画家のひとり。1998年逝去。夫の鈴木実は木彫による独特の肖像彫刻で高く評価され、1978年第7回平櫛田中賞受賞、1985年第16回中原悌二郎賞受賞。

◇大宮昇(おおみや のぼる):1901年愛媛県松山生まれ。1925年上京し、その後、石版画を学ぶ。1935年第4回日本版画協会展に初入選。1935年秋から翌年春頃までいわきに滞在したと考えられ、炭鉱に取材しスケッチブック4冊にまとめ、いわきで石版集《炭山画譜》を制作。1957年帰郷し、版画教育の普及につとめる。1973年逝去。